

八尾市教育センター NEWS

令和5年4月

所報：384

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web pageは
こちらから



令和5年度も よろしくお願ひいたします

春の暖かい日ざしがうれしい季節となりました。

平素より、八尾市教育センターの事業にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

本センターは、「八尾市教育振興基本計画」に基づき「認め合い ともに生き 未来を切り拓く八尾の教育」のもと研究・実践の取組みを進めております。

令和4年度は、GIGA スクール構想における1人1台の児童生徒用端末の効果的な活用に向けて、ICT 研修の実施やICT 研究推進校の取組みを発信するとともに、ICT 支援員の配置などを行ってまいりました。また、特別支援教育の推進、及び不登校児童生徒への支援として、学校や公共施設に学生サポーターの派遣を行うとともに、オンラインを活用した学習支援等を進めてまいりました。幼児教育におきましては、認定こども園における幼児教育研究事業を実施し、その成果を就学前施設や小・中学校、義務教育学校へ発信し、幼児教育と小学校・義務教育学校前期課程教育の円滑な接続を図ってまいりました。

急激に変化する時代の中で、「令和の日本型学校教育」を踏まえた新しい時代における教育が求められております。令和5年度は、研究研修係、相談支援係の両係の体制のもと国の教育改革の動向や本市の教育課題を踏まえながら、様々な事業を行ってまいります。

本センターは、高安山のふもとにあり、四季折々の自然を感じられ、来所される方々を季節の花々が迎えております。コミュニケーションを大切にしながら、本センター業務を通して、子ども、保護者、学校を支援し、「未来を切り拓く チャレンジする『八尾っ子』」の育成をめざしてまいります。

今後ともご支援・ご協力のほど、どうぞよろしくお願ひいたします。



八尾市教育センター

所長 打抜 真由美



八尾市教育センターの事業紹介！

教育相談事業	子どものすこやかな成長・発達を願い、教育上のさまざまな課題や保護者の悩みについて、来所相談及び電話相談を行います。また学校への巡回相談なども行い子どもたちをサポートします。
不登校支援事業	さまざまな要因によって登校できない状況にある児童生徒に対して、学校復帰・社会的自立に向けての支援（教育相談、集団生活への適応指導、ICTを活用した学習支援、居場所づくり等）を行います。
就学相談事業	個別の教育的支援が必要な幼児児童本人や保護者の教育的ニーズや意向を踏まえ、より良い進路をともに考えていきます。
特別支援教育推進事業	特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する総合的な教育的支援のために、専門家チームが巡回するなど、学校への支援を行います。
SSW（スクールソーシャルワーカー）活用事業	スクールソーシャルワーカーを学校に派遣し、子どもが抱える諸課題に対してアセスメントとプランニングを行い、関係機関と連携して児童生徒や保護者への支援体制構築を図ります。
スクールサポーター派遣事業	大学生や地域住民をスクールサポーターとして市立学校に派遣し、学習支援や支援学級の活動支援の補助、不登校支援など、さまざまな教育活動の支援を行います。
教育研究・研修事業	<p><教職員研修> 教職員の資質や知識技能の向上を図るため中核市教育委員会として法定研修をはじめ教育的ニーズに応じた研修を実施します。 ○初任者・新規採用者研修、2年次研修 ○3年次研修 ○5年経験者研修・10年経験者研修 その他、分掌別・担当者研修や各種課題別研修を行います。</p> <p><教育研究> 各学校長の推薦で研究協力員を募集し、授業研究や資料・情報の収集を行い、その実践事例などの成果を学校に普及していく活動を行います。</p>
教育情報収集・提供事業	教科書センターとして、教科書の展示や貸し出しを行います。また情報公開コーナーを設置し、教育図書などの閲覧や貸し出しを行います。
幼児教育研究・研修事業	幼児教育に関する研修、園内研修会への指導助言、幼児教育研究、特別支援教育・保育巡回指導を実施いたします。公立園と私立園の保育者が共に学び合う機会の充実を図り、幼児教育アドバイザーも活用しながら、八尾市の幼児教育・保育の質の向上と、小学校・義務教育学校前期課程における教育への円滑な接続をめざします。
小中一貫教育推進事業	中学校区でめざす子ども像を共有しながら、教職員が連携・協働し、子どもの9年間の成長を見通した指導体制・指導方法等を工夫することで、「学習意欲の向上」や「豊かな人間性や社会性の育成」をめざします。
学校ICT活用事業	個別最適な学びや協働的な学びの一体的な充実を実現するためにICT環境を整備します。そしてICT活用による授業改善及び子どもたちの情報活用能力の向上をめざし、教職員にタブレット端末等ICT機器の活用研修や情報モラルに関する研修、プログラミング教育の推進などを行います。また校務支援システムを活用し教員の働き方改革を推進します。さらにGIGAスクール構想の実現に向け学校ICT環境整備や情報機器・ネットワーク等情報インフラの管理運営業務を通して、教育の情報化の振興と充実を図ります。



介助員・看護介助員・特別支援教育支援員研修

令和5年4月5日（水）午後2時～午後3時に介助員・看護介助員・特別支援教育支援員研修を、本センターで行いました。講師は本センター指導主事辻佳与子で内容は「勤務について」と「特別支援教育の基礎基本」です。この研修はwebでも配信しており、受講者がどちらで受講するか選択することができます。受講者のうち10名が本センターに来所して受講し、その他は配置校において受講しました。受講記録は受講者用端末でQRコードを読み取って入力します。webでの受講者も同様です。本市では可能な限り研修においてもICTを積極的に活用しています。



<受講者感想>

- ・自分の仕事内容がどういうものなのか、改めて考えられたと思う。始業式から色々な子どもと関わるが、障がい名で判断するのではなく、一人ひとりの特性を理解した上で支援できるように、学び続けたいと感じた。今までの経験も活かしながら頑張りたい。
- ・一人ひとりに応じた対応をするためにもたくさんの先生方と協力し、情報を共有し、子どもの自己肯定感を少しでも高めるお手伝いをしたいと思う。子どもを色々な方法で褒めたい、ポジティブな言い回しをしたいと改めて感じた。
- ・はじめてzoomで研修を受け。勤務についてとても詳しく話していただき、改めて介助員として子どもの支援の方法を学ぶことができた。

八尾市新規採用スクールソーシャルワーカー 説明会及び研修会



令和5年4月5日（水）午後2時～午後5時に、八尾市新規採用スクールソーシャルワーカー説明会及び研修会を本センターで行いました。講師は本センター指導主事吉田光秀で、本市におけるスクールソーシャルワーカー事業の内容について説明・協議しました。

※スクールソーシャルワーカーとはSchool Social Workerという英語です。SSWと略称で呼ぶこともあります。子ども

たちと地域・家庭・学校を結ぶ役割を果たします。

初任者研修①・「教育長講話」「開講式」等



令和5年4月7日（金）午後3時～午後5時に初任者研修①・「教育長講話」「開講式」を本センターで行いました。初任者研修受講者の人数は40名、うち事務職員2名です。浦上弘明教育長、原田奈緒美副教育長、小山健治教育監が来所し、教育長から「子どもから信頼される先生になるためには」と題して講話が行われました。研修時には教育長の著書「ウラさんの教育人生 40年—未来へむかう子ども・親・すべてのおとなたちへ」が配付されました。その後、本センター所長打抜真由美より「みなさんに期待すること」と題して講話がありました。



＜受講者感想＞

- 教育の原点は、まず子どもたちとの人間関係作りから始まるものだと聞いて、とても納得できた。ひとに何かを伝えることや教えることは、その相手との人間関係ができていないと伝わらないのだと思った。また、桃太郎伝説の解説は、事務職員にとってとても大事な考え方だと感じた。
- 信頼される教師になるために、日々学び続ける必要があるということを知った。特に、授業力を高められるように努めること、一方的に話をするのではなく、子どもの思いに寄り添って子どもの思いを受け止めるということを実践しなければいけないということを実感することができた。
- 教員の役割は生徒からの信頼がなければ成り立たないものであり、生徒からの信頼は教員の授業力によって高められる。そのため、教員は絶えず授業力を高めるための研鑽を行うことが必要だということを感じた。
- 新規採用ではあるものの、子どもたちや保護者からみれば同じ「先生」なので、自分自身常に学び・磨き続けることが必要だと改めて感じた。「初心忘るべからず」というが、今日感じたことを何年たっても心に留めておきたいと思った。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は3月から4月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）4月号

- 特集1 実りある校内研修
- 特集2 グループアプローチを教育に生かす

「道徳教育」（明治図書）4月号

- 「考え、議論する道徳」をスタート！ こだわりの授業開き2023

「そだちの科学」（日本評論社）4月号

- 特集 発達障害とゲーム

「月刊学校教育相談」（ほんのもり出版）4月号

- 特集1 新年度、心理的安全性の高い学級をつくるために
- 特集2 担任の面談をサポートする配付資料

「特別支援教育」（文部科学省編集・東洋館出版社）令和5年春 No.89

- ・特集 小・中・高等学校等における特別支援教育の進展に向けて

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集・東洋館出版社）4月号

- ・特集 新年度の子ども理解と授業づくりのアップデート

授業づくりベーシック ～実態把握から評価計画（プランづくり）まで～

「初等教育資料」（文部科学省編集・（株）東洋館出版社発行）4月号

- ・特集Ⅰ 資質・能力の育成に向けた授業づくり1
—知識及び技能の指導と評価を軸に①—
- ・特集Ⅱ [外国語活動・外国語] 学習指導要領における指導のポイント
小学校外国語教育における「読むこと」「書くこと」の指導の在り方

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）4月号

- ・特集 道徳教育推進教師を中心とした道徳教育の推進

教育科学「国語教育」（明治図書）4月号

- ・特集 「授業開き」最強ナビー基本からこだわりまで

教育科学「社会科教育」（明治図書）4月号

- ・特集 100万人が受けたい！ 社会科授業開きアイデア

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）4月号

- ・特集 数学的な見方・考え方を働かせた学びを創る

各雑誌の4月号を見ると「授業開き」という言葉がタイトルの中に少なからず見られます。読んでみるとそれぞれ説得力があります。ICTを活用したものも多くみられます。教科の目標や授業の進め方の工夫、教室でのルールなどが詳細に述べられています。一方、2月号や3月号を見ても「授業総括」の記事はみられません。授業の開き方は人それぞれなのだから、総括は各自行えということでしょうか。いわゆる「授業評価」のアンケートはあるかもしれませんが、各教師が「授業開き」で指導したことに対応したものではありません。これは教師と児童生徒との約束ですから、教師が児童生徒と向き合って「総括」を行うべきではないでしょうか。「指導と評価の一体化」という意味においては、授業のやり方は学期中に随時修正していくべきものですが、年間を通してどのように変化したのか、その結果良くなったのかどうか検証が必要です。このように考えると「授業開き」の重要性が見えてきます。私自身のことを振り返ると、十分な検証を行っていたとは言えません。ただ、今の時代「（児童生徒の）主体的・対話的で深い学び」を実現していくためには「授業開き」に対応した「総括」は絶対必要なことではないでしょうか。

（葭仲）